

【音楽・小5・「曲想の変化を感じ取ろう」】

育成を目指す資質・能力

楽曲の構造から、曲想の変化を感じ取ることができる。

ICT活用のポイント

・音や音楽、言葉によるコミュニケーション（音楽科の特質に応じた言語活動）に、デジタル音源や動画を活用した授業

前時の学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ

イ（後半部分）で曲が盛り上がるのはなぜだろう？

個別に問題を追及する

リズム・旋律・音の重なりを聴き取り、それらが曲想の変化とどのように関わっているかについて考える

リズムを変えた第2・3パートに合わせて演奏することで、曲想の変化を実感し、まとめをする

事例の概要

【事例におけるICT活用の場面①】

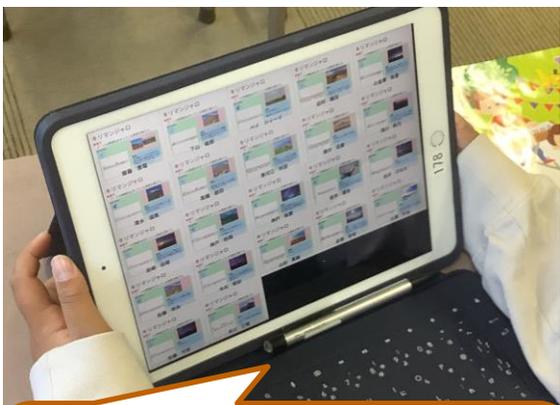
- 前時までの学習の流れを確認するため、ワークシートに記載した内容を大型提示装置で示し、「この曲の面白いところは曲の雰囲気途中で変わることである」という学習内容を確認する。その上で、後半が盛り上がっていることや、盛り上がる理由を考えてみたいという課題意識を引き出し、「イ（後半部分）で曲が盛り上がるのはなぜだろう？」というめあてを引き出す。
- ワークシートの記入・作成は端末上で行い、データを集約・共有・蓄積する。また、楽譜や音源・動画等のデータを、ワークシート上で児童が個別に活用できるようにする。

【事例におけるICT活用の場面②】

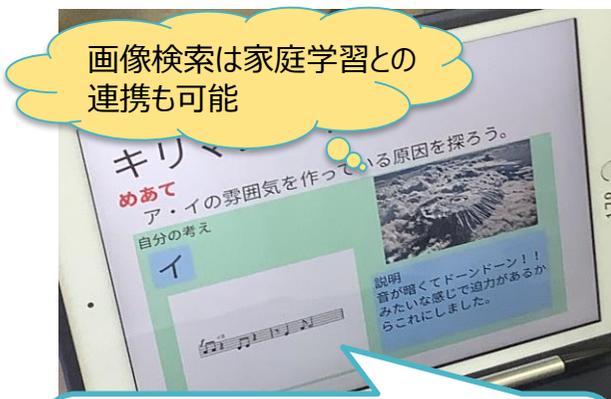
- 学習支援ソフトウェア等を利用し、楽譜や音源、実際に演奏している動画など、音や音楽で実感できる情報を、1人一人が端末上で活用したり組み合わせたりしながら、自分の考えが持てたり深めたりできるようにしていく。
- 音楽制作ソフトウェアを活用し、端末を楽器の代わりとして使用することで、実際に音に出して旋律の感じを確かめられるようにする。また、リズムを変えた伴奏を作成し、それに合わせて合奏することで、曲の雰囲気の違いを実感できる活動を取り入れる。

【音楽・小5・「曲想の変化を感じ取ろう」】

【事例におけるICT活用の場面①】～思考の可視可・共有と蓄積～



- 友達の考えや感じ方を知り、音楽のイメージを全体で共有することで、解決への見通しをもつ。



画像検索は家庭学習との連携も可能

- 音楽のイメージと、選んだ画像や楽譜を関係づけ、自分の言葉で説明し、考えを明確にする。

考えを共有する場面では、楽譜や実際の音や演奏、ワークシートに記載した自分の考えを一人一人のICT端末で活用できるようにし、友達の考えを共有するだけでなく、音や音楽など実感を伴った共感につなげられるようにした。

【事例におけるICT活用の場面②】～音や音楽を伴った実感～



楽譜に動画を紐付け 実際の演奏や音で確認

- 音楽の特徴を、旋律の動きや各パートの演奏、音色を根拠にして考える際、実際の音や演奏で確認できる。



学校にない楽器の音色を使った 試行錯誤も可能

- 端末を楽器の代わりとして活用して演奏（感染症対策にも）したりリズムや音色を変えて試行錯誤したりすることで、イメージと音色との関わりに気付く。



- 感じたことや考えたことなど、個別で深まったことを、楽譜や実際の音と関連付けて説明し、共有することで、共感につなげ、自分の考えを広げる。

【活用したソフトや機能】

- 音楽制作ソフトウェア（ガレージバンド）
器楽演奏、音色確認、楽譜・演奏動画制作
- 学習支援ソフトウェア
動画再生、データ提出・受信 一覧表示